八風論

特別
へ5
6089
1

宮内省図書寮

序

みやこをとりの泉もなつまつりの
来ゆかずあるをもまつをいかゝ
なるらんとこゝろ今世御潜とゝ
なる其名をあらはす連歌の一部なる
ゆゑ俗名のみをもて称す

宮内氏之文庫
高橋文庫

54-4097

しきりなる宮ゐ作和楚山奨い
永風月の友あり一日ありて
春あるいは海る者故人の郷潯の
句伐拾ひわつめて記をつき
ぬりて古風ほうへる事を新
に第千巻あり此れ序法也

とゝ命ある道おのづから
うれを拾ふよりそなわる人の
ふはのうの河のよつまて言狂
しきゆゑ高うをと再こゝあるる
程なくよる角て楚山師
うゆゑおのこう毛系彼巻加乾

と楚山遠云々と世事浅い為るかと
一笑らし侍まと序を備とゝ
いつまの糸江にうかなきれし
ゆうきにうをえの恋しを憑
すかのゝ行とゝやいとへき江野人
謾書

自叙

夫風雅を天地の風雅ゝく
ゝ人ゝ不変の大道神仙人物
森羅萬象風流なるきれこゝ
なるゝ抜まゝの中ゝ至ゝ事
の風俗ゝ又ゝ変れゝ
風俗ゝうゝやゝ抜まゝ
鄙のうゝあるゝて国ゝ俗

のなりたちいきさつたのしみある
その七地乃手をたゝん是もて
書色なれる毎月毎日と五色あるの
こゝ〳〵ゑの江都まとむきさきに
名所りて他ちつゝ出〳〵まなゝぬ
取ぞこゝふ俳諧の武陽ある壮ん
なるハ延宝の比前蘇徳元と
いつれ有りもつゝ絶まれの作者な

しゝ寛永十八年京師花笑翁
の言葉松江重頼はゝ名ゝ
物多集を撰〳〵時此集を貞徳合體也右徳元
歳を出句式ゝ老江ふとの
武江の面目を拓〳〵ゝ四年
俳諧初学抄を述作して持ふ
彫む是江戸にゝ一道板本
のゝ〳〵めもゝ其ゝ獨吟

百貫同十鳥千句なりあり
續て石田未得高嶋玄札の
族宗匠家を立て猶此道さか
式巖千達坂の関のこなた東
をみちのおく塩釜の手島乃
果までこそ此風俗ふる者数のきり
をなしぞ又そのち難波の宗因此
地千下りて檀林の俳道ふ連を

出山一鐵等抜作者出て江戸
八百韻を巻のこれ伊賀の
桃青住て此風を甘一称
隅田玉川の流ふ流骨を洗ひ深
てつねの子正風一統の風德を
ひろく世ふ呼んで芭蕉翁とふ
閑庭ニ芭蕉ヲ栽ユ仍自然ニ人是ヲ称ス
しておまし青い竹ことこと万国ふ遊歩
ましてこの流を蒼い関東ふ

此ものを玄なるものぞ又いふ門下子
拙きものあり門人か嵐雪其角あり
はつるものの羨言世ふ人の言所なり
其哉嵐哉あり百世ゝ流師なりて
その高きものいふ所なり既に千
蕉門の上ふ秀てその真理を
得るものあり未才なるふ百千
あるべきことを疑ふべつるなり古集

是味ふべきことぞこころふ西沼沾徳
老人あり是をこふし岩城に候
風虎子なるもの伝出数庵なあり
ものもものもものもの沾歌ふ遊んでものを伐
ものもの交ものもの子規の句説あり言へ
其嵐を沾徳をいふ判説の
竹士ものもものもの右の四子金を断出
交ものもの此時素堂杉風をものも

旁吟未偏の俳哲家しに壮なり
是にまた是等の門のきより出る和ぞ。。
又貴志沾洲先師号田青峨柔居
貞佐ハ其嵐沾三子に骨髄に入て
をさの正流たりその西叟没し
て後杉沾徳ニ隠居して宝永
享保の風宗匠家をも嗣て此
時天下こと／＼く此一派になびく

京師の仙鶴浪速の淡々も
ある此合歓堂に徒なり予も
是に随つて享保なるの頃より
青年の時俳識をも嗜先師に
受て花晨月夕の労をなす
といへともこれより多病にして
力足らぬによりて近来西土の蕉門の
風儀をうつすところとなれり

すゑ皆芭蕉の流にて其嵐の
根本の向上脚まわりを学ぶ
武城の人のとゝき変ていないぞ
ふゝふゝふゝ江戸みやゝあるよし
辞言ていゝゝん東訛ゝゝ上方ことば
とつこうふゝ似るそのうちなまりあり
ゆゑぞたゝく京談ゝきゝゝゝゝも此国
本来のなまりまゝいあり〳〵より

すまし康ふゝ一事も変このきあり
ぞ早竟人情の表飯なゝ〳〵
吾無学短才あれゝゝもいゝゝも
なきゝゝゝ狂句を好んで其心徹ふ
直入をんゝゝゝゝゝゝ事ゆゝゝや
年ゝゝゝゝゝゝゝゝも此関東風俗
ゝゝふ名ゝゝふ越露ちんゝゝく
するものゝゝ玉門平合伝する

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

于時宝暦六丙子春於道灌山陰
之村居演之

撰者
江都低園　紫隠春來居士

書写　亀雄

以関東中興俳祖德元老逝
之句余次獨吼三十五句唯慕
古雅而已不慚愚作之拙見
同之好士其憶之

歌仙

[illegible]門の松　徳元

唐土もしらぬ心いさを　春来

大きなる鈴の緒にかけてふれ

根ぶかく倚てと眠る

[illegible]雁千人もとの月

相撲丁見のまつこうしら

[illegible]

[illegible]武門の栗山よりいやく

飯[illegible]汁とのたれしらの葉

中心[illegible]の豆駄て踏れる

[illegible]れいまとしれ[illegible]

三蓋の月[illegible]のうるふさよ

信玄謙信ともふなむ人

[illegible]羽山祢の八面ら舊りて

[illegible]の[illegible]辰

揚子まや女夫か中に志やんと之
まるしと絲ろふかくい奴ゐ
に俳のうちも万句も花のとき
りや蕭日なる正川のめし
蟾(名残)銅の大臣の歯くとおすとん
と食ともいへるゑの名く達
針のまいは杉鳴としてうり
縮上下共 膝ふ 三絃

料理喰ひ荘壱のうへよきまるもる
て河骨のらんみかうとて
これおう子ろうへおうくほ半やある
懐中代庵かとかくの
鯨あるうし居なりと借りされ
江戸百韻の嘘も 八百
月出 安来 青言 如一 泰
何のゐやら 似た村の佛

裏

[illegible]の部[illegible]麦小鮭の魚
民の敷[illegible]を風[illegible]
孝行の[illegible]侯[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
一歩の田螺[illegible]

小引

師春来先生東風流百わ[illegible]
[illegible]の[illegible]国東吉人の巻[illegible]を
[illegible]巻[illegible]ふ三十[illegible]
貴わ[illegible]時の深老わ[illegible]壮の
[illegible]徳元孝人[illegible]
六益先師[illegible]
師[illegible]の起[illegible]

百負の嘆嘆今の人心の
はるるや時の積年の草
紫を各義年仲間に按合し
うんでい手仲かとも也拵上
つりるしし七巻作風第子菴
句藻の部をいるの十ノ一冊
わるるまおや江都の俳風
見しかいるとしるる何ものや

他郷他門の翻譯社撰い吾の寄
のるるいるい用しを墨の
刊の味しとるるのを
味ふる知れへさのを

李井菴
雅道
時を菴

歌仙

鳳凰須臾朝鶏なく音霞春　風虎子

吉書はしめや風月の花　春来

さ角くと角うる長さ日り　雪凝子

やさしく山ふみ里の船うち　同

雉乃か人見のうる唐土く　来

見へうしほの光く鱸の紅　同

ウ

ロくるる周の塚の声高し　淀
まうけ来る端女つくるふ　末
ものわるものみくわくやのふ　淀
嘶くと無数の北条　末
無髮の奴もあり　淀
名をふとる所に学ぶ雅　末
ものゆるふや三保浦の鳴海の中　同
雨りしぬるくいうれの菴　淀

陰のしら白ちうう栄の燼　末
夜るべ小の礼暮方の滝　淀
月ゆる秋の池茶吽　末
あ月いとなくと称ふ官守　淀
埋木の白ひ秋刈る山陰　末
温泉場の赤の矢もはげ　淀
小髪ちうう命婦の法師　末
わわ　暖簾もの秋屋の卯　淀

唐土けのきんん箱ゆき所 淀
大師河原の大蛇先生 ま
ゝ[illegible]て[illegible]摩利支天 淀
夢んくりじ[illegible]今ふれ[illegible]回り ま
柳氏親うん[illegible]似[illegible]や 淀
[illegible]ら[illegible] 碑ま月 回
俳[illegible]する稲葉のもろ[illegible]ふ ま
夏の香[illegible]れ[illegible]門の家 淀

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ら[illegible]髭 ま
[illegible]山鴉の午鶏[illegible] 淀
[illegible]れ[illegible]の[illegible]れる[illegible]腦 ま
[illegible]わ味[illegible] 南亭の寿陽 回
一日の花[illegible]小糠雨 淀
時を[illegible]黄氏 [illegible]

軟仙

きく花の咲くまで見る奥墨絵　羅山子

唐墨ふかく鶴林梅林　春來

挾箱葉草つくつくはるみ　百太

又一ふの鶴ふるあるの　買明

夜ひかるき四ふ嶺ふ月の頃　栄夫

千里ふる番衣味号　渭北

故人の得たりける錦山　末
前にまいらせし若い法師　夫
世房を損ずるくい樹と思ひ　四
ふるのうふ角いさし合　末
神風を待て日和て覚そう　太
搦船の途い酒もあるもむ　四
月にうくく音ふる中の浦波　小
をぢのつまいもと比遠の牧　太

源小太郎殿　末
ひかまを草履を見ふ捨人　小
船月常さへ小田を降る和　四
蝿のいまる夜うを嘗む　末
ひうをんを宮の音ふ物聞人　太
大僧正いをきくかのと皮　四
陣屋の吹ふ風い嵐ふく　小
もを色ふ見る朝の格のつる　太

きくと雨も五人のわかめ寅　ま
見物せんとて宮女さくやく　小
待兵つもりあるとて秋力　四
簾のうちへあるとて冨　ま
羅をとして月の白濃紫濃合　太
いくつかも徳をきくとて帰　四
燈のある物をきくつる華の秋　小
清水も鶴屋のかをとえんとう　太

ウ

梅山のかへんとやうぶ　ま
夜中に起て飯をしてやる　小
なをも見ぬ荒き間の雨煙　太
ふかをとうけて積のこと　ま
花桜柵柄つ角うと雨り　四
竹のう持ち蔵去申く　小

歌仙

得ることの烟つま男眠れる露　露沾子

長閑なるきりぎす聞沾徳　春來

ものゝ揺ふ神ふきぶりく　梅郊子

ゝあるふふ舟乃ゝゝく　了因

四方見る詩ゝ霞る月のお　陶巾

雑巾ゝるものゝゝを　沾雨

二葉三葉付く糸乱小結び　酉年　夏菴

せるとうゝ迷ふく老の行方　渭小

人もまねぶ社の鼓うゝ　ま

持葉とやもれし四月朔日　郊

深ふけく見ぬ幟の湯を敲て　雨

大あゝ雨　小鶴雅の絃　菴

泥ふけを引まくる一茶妻　小

ふゝとうゝ字の燈るり灯　巾

月ほのゝ去の川辺のみ清貴　同

うゝも突く春の杖　雨

角蔵く廉の人よ抱ひ道　郊

わゝくゝらまゝく春ふまんゝ　小

文覚い呵ゝ　巾

孤格ゝ　百年　乃埃　同

六尺もゝのゝ雨うゝ乾ゝ雨　居

他のむ子乃辺いけ　ま

ちるものゝ人は皺に雨やしてき　雨
帯くふれて節邊に侍る　郊
笛の音も竹のうへ見ゆる嵐　因
餅と燒とふ迹まくるや　居
いく度振はきりさらし地下の宿　来
拜ふ抑まれ相二重まわり　中
茶川花やんの人も月は見ん　小
足ふ覺の厂きまめつむ　因

ウ
本據いまかい所の斤くしら　中
大鍼屓の大ふ而かやらせかき　来
晉かまふ先人音とやらし　郊
暁のつやまとのきの色　雨
花のさとし倉さ面ふ書きけむ　居
枚帰愁し狗杞しきさ萩　小

歌仙

[illegible]天下の春のたつ今　玄札
口ふ渡る初ねの声　春来
花瓶ふ[illegible]時い酒いまこそ　旦厚
箱の[illegible]笑ふ狂言の面　旨原
更[illegible]又[illegible]松ふ月の変[illegible]　蝸名
早稲田ふ[illegible]風の[illegible]　萬立

ウ

長竹を折りて空へ投げしかば　来
いくさ見るも唾の咎明　名
駒取つきれくかりる雨を卿　原
立河みちかう茅屋の変　厚
馬鹿すこと立竹を振れば　立
鍋の鑄かけよりかくしも　原
変の日を立んる切通し　名
いくさ鎗下の禅　来

厚
うけい知らずは蓑の日とする　立
立ちたち木の屋根の上　来
わらはねたる桐の葉　厚
小便いのちの科　原
元を立て終りある通　名
沖仙世の理をわれ　立
天日山のわらはの声　原

かれ松の人の神と独　厚
増しの食のまたらぬ　来
けふ都人かりもしらる面　名
吟矢の君やもとる紙　厚
枝苗をこなたにみかりぬる　原
月うしろ馬も撞しを　立
ちくふ階をけて吸　名
赤しむ葛ぬるのしつく　来

ウ
ゆきあるの此の地の松ぬり　立
百ちの雲しらくとぬ年　厚
虎の子を産ますや　来
雨をけつふ晴のる穴　立
花の山猿のちる人を見る　原
ちくと酒まる三月の中　名

歌仙

澤菴和尚

象潟の月や流人のまち付船

櫻ちらしよ埋りぬる花　居士　春来

無理ぶ信義屋ハ秋を不沙めく　九波夏　徹宗

雨の晴やうし　同

芋里の所腹ハ歌のうしろ也　ま

鼻の白髮ハぬるとうれす　同

愛の世かしと合ひ移れつゝ宗
理数いえまさるこんの玉、
かの別の世の見惜しがりて、
月〻に滝の風を吹かせて、
秋霧をさそふ武蔵野の、
中〻を旁風よりも通る妻、
天井へ比翼の鳥の絵馬うりて、
生き連ぶ方はふとゝめへ、

今成まる胡蝶の数のかゝげ也、
人もが〻くさるる風、
広縁の蔦黒ずむる朝〻、
酒〻ひかひ腸を断、
まれつき嫉妬の眼遣つゝ、
随身めゝれうまん弦音、
片笑の〻扇の上の神楽来
跨用まんか判ひ立ゝ、

いろかしら雪わる世を通きし、
ほくく濱めし雪陰の銘、
白雲のむら〳〵利金屋うら陽、
月うく谷うく百里琴風、
そとう濱潮の秋に霧くうう、
ふるく家を蘭竹のもと、
ある時いとかの屋禪めくくて、
角ふる沖の字つれなき、

ウ
青すたれまい簾ふさうくた、
うしろてちゝんし禪の曲、
うう初のうとゝも鴉の色ゝ、
奇童うの大食ひう邪、
うちのくれよ小金の滿こ寺宗
柳いうう〳〵きの長、

歌仙

[illegible]猫の爪　露言

[illegible]ほのぼのと月の朧夜　春来

[illegible]なる藤咲く　巨洲

[illegible]氏解[illegible]

[illegible]の裏さらし陸亀蒙　来

[illegible]

宮守の里にて雲井
捨課をもとめて
鶯の鳴けるを聞いふる
奴をもとめて五升まちまち
朝やけやあるを西舟の近きにぬ
りつてすゝぶ鶯の見し
その下に秋はすゝむ花格
なりけるものの寺のうち盤

嗽すゝぎ月の海に四季野
糸瓜のふ宰領の行く
海猫のうちの秋の風俗
汁田をもとめて借りて清草
鶯の唐土風を引きて
料理を生ゝくふ
頭巾ふ僧をもとめ月も
祇を歳をもとめ

志ゝ[illegible]ゝ菌一荷のうまきあま
麦飯ばかりまじり宗長ゝ所ゝ
源氏堂語のゝ風のしらべ、
三百ゝ十日ゝ云ふもかゝ
思ひ出ゝ月ゝ[illegible]非人丸、
[illegible]も所ゝ迷ふ作ふ[illegible]ゝ
金持のゝ[illegible]ゝ屋、
ゝる碇ふ地[illegible]
[illegible]

[illegible]ゝ地[illegible]
[illegible]ゝ音の里いかゝ[illegible]ゝ
経緯ゝ合縫ゝ蜘ふゝる蛛
ゝ押ても腸當ゝ
何[illegible]ゝ山[illegible]師、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]島

執筆

哥仙

[illegible]　季吟印

本式の表和歌のうら白　春泰

鶯は朝日の日うら味よて　雲義

鈔捨舟[illegible]　存義

う殿と町は礎のめゝ柏子　圖大

德ふ稀ゝ[illegible]　庭臺

ウ 我が家に抱きふせて客の枝　米仲
人さへ見るとて鈴はしやぐく　重茂
日は雁共一本の伝ふ地のうち　庭雲
紫金ふくの○て光祖まさ宇　岡大
脇うふふ雷のいかの光　長来
まこ風ふく青梅の井　米仲
いかのく法の車の行つまて　存義
宮のう鏡君を見ま　庭雲

ウ 常の行けて月寒　米仲
行りのまま代脇の指　長来
花親ふ帝トの宇とく　岡大
はう雀鞠うもん　日
ぬまの奈文とふ妻の夜か　重茂
切なる時うつも湯豆腐　日
倒まるをかるる枝の持うく　庭雲
ゆたく伊豆のとう風　長来

俊基とくらくの下卿とも　存義
大ふさきとる老の腦　同
あるまゝ賃餅のうり　花園大
貞りゝ律儀なるゝ　雲義
きゝとゝ集く十二段　長集
河をゝるゝ白入の地　年仲
いろ島のゝ暮る月の俤　雲義
うんまきふ松のうゝ稲　庭臺

四の秋庫裏客殿のわゝ　存義
んてゝれりの鶏の姿　同
ゝるゝ人ゝ殿ゝまゝ　年仲
あゝ一声口四ゝの月　同
眼ゝの轉句ゝ花ゝ　庭臺
雲のゝゝ蓬ゝ　紀雲

歌僊

[illegible] 未得

人[illegible]の鴨のねもとき　春來

朝風の[illegible]車をおのらでく　未山

[illegible]端をて[illegible]日あるり　五仙

待月の[illegible]も[illegible]　買明

[illegible]の[illegible]の[illegible]年の主　萬立

霧ウ

[illegible]

病人ハ目ヲ[illegible]

時雨の竹を窓の風に[illegible]

[illegible]

寒[illegible]

内井戸[illegible]

斧[illegible]

旨原
釣深
渭北
二調
仙水
未山
素
貫明

同字の[illegible]九年畏[illegible]

畏の首[illegible]

去の日[illegible]

せまい船[illegible]

菓子代[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五仙
仙水
二調
渭小
五仙
未山
釣深
旨原

添住ものゝ世の奈の内を問ふと賢
まゝ三重鳩の研かゝられる
強をけゝ牛の角文字
六人組ゝ恋の物
みゝ冷ゝ藁師
腰ゝ月冴ゝ
ゝ鶴の猪牙

渭小
素
約深
二間
賢四
五仙
旨原
仙多

ソ変ゝ見の
出い四方ゝ少ゝ
大坂ゝ
石の地蔵
渡腰ゝ
小四の首

二間
賢四
手山
仙多
渭小
深

歌仙

[illegible]の樂の花見る時[illegible]眠　元隆

[illegible]の[illegible]の音　春來

[illegible]屋いやしき[illegible]　太峨

駄馬の[illegible]　信鳥

[illegible]太[illegible]露の[illegible]月　渭北

[illegible]の[illegible]　峨

紅葉ヶ鶴と一枝圃の
事
手理か眼病とてこれ
ハ
如房ハ文ヶ月ヶ
方
ぐるくと遠し生葱の
事
先達ハ蒲団縫ヶ
哦
同所能ヶ亀井一行圃
ヶ
雲長ヶ
ハ
能の
哦

頃ヶ海ヶ
事
後段ヶ
ハ
長ヶ
ヶ
長の横ヶ
事
ヶ
行ヶ国生の口ヶ吸ヶ
ヶ
通る
ハ
御夜構船の
哦

[illegible]
[illegible]
金閣寺の[illegible]
白眼つゝる社屋わくまむ
きものゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]の橋より[illegible]
[illegible]

[illegible]
雑巾[illegible]
[illegible]
四角の[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌仙

祖調和

沙弓見ぬ霞の浦のつれ
うすむらさきの芝ふきの野　春来
胴寅の秋は頭市ふ暮うの○く　里山
算筍ちうもれ才ちう　翠
きふの月猪口の口ちは猪口の実　和專
本屋の書ハ　山

露ヲト道灌山ヲ行時
為ハ是程の及ル事 無 專
まさに秋風ハ葉灌のゝ梢 翠
甲子の嵐吟ひちらすもの
わびしい擂ハ清泉の今の京山
面ゝ
秋ハ物ゝ荒ハ
新ゝ大きのゝ

頃塚の美仏と
重宝なる
ゆくゑ
袴のむまふまの
蟬蝉 黒
といふ瀧の
いつとなく
鋼童子の

歌仙

河音の時雨の亭の屋形船　未琢

風流中うらぶれ分るる夜　春来

鶏うつる人形浄るしむ　湖天

夜ふかし河ノ字殿御伽り　社嚴

酒ふるまもの大夢　茅仲

存義

秋のものかいやうの腰かけて　末
人のかたちを見るねりわり　仲
紫ふしけ猪すもじ　嵐
鉢屋の陰くしい馬もちつき　天
霍乱のつゆ　義
俳書九文字のとぐ　末
大黒の耳ふるる慶かう　仲
待ちまれ醫者の京後　嵐

[illegible]　天
[illegible]　義
[illegible]　任
[illegible]　萬
[illegible]　仲
[illegible]　嵐
[illegible]　天
[illegible]　末
[illegible]　立
[illegible]　本堂
[illegible]　袁

もうしきかと捨ぬ玉鬘　義
谷の家中のもの〻源氏　末
屑掃き〻妹をやとり寄せ　仲
胃入わたし物のつるまし　嵐
大徒所はのゝ屋代と春夏〻　天
四つ〻八つ〻ふ二度毎れ鉢　義
玉簪今を盛の三まのりのくと　末
乗山の夢をとりやとりるみ　天

百名い皆小殆〻秋のり色　三
渡のいくも大変のまた　仲
まのもふ刈のかるつ同場枝　義
結ふ色かくるの屋明る　末
けり見越の屋の中ふ我　嵐
時もう独焼の味　立

歌仙

[illegible]の鶏のうき世の邯　山夕
[illegible]寒きかしも　春来
唐崎の[illegible]音なくく　花千
[illegible]して付うち　夏菴
暮の月毎の[illegible]数決　有佐
[illegible]の胡蝶[illegible]ぬと[illegible]　和夫

ウ

れしりや鷄の秋村園の前　庵

鉦のきこへつ深夜にもきこ　千

遠智子ふ子みて花しろき見きとひ　丈

気楽のよい奴みてしめふまい　佐

おろさ近き宮寺の小さふき　ま

昔の庵の寒念佛しのひ　居

しは鳴や兜の用も手つき池　千

めは漕男陵いつともなし　丈

ウ

よおうきた人ふまへやる振り葉　佐

皆所へとまる萩入の月　ま

櫻はし花垣しふ紅葉を　丈

ふう陽くくくくひとの名　千

日もしく良ふみふくに乃来車　居

爺の持わし鼻ふある紹息　代

権兵衛町居無葉い桃く細長き　丈

その長いはしかたまの浦の鋪　ま

[illegible]船の岩の雪ふまわる原　千
[illegible]太閤の[illegible]の田　居
[illegible]の[illegible]の[illegible]の小豆飯　住
傘[illegible]の[illegible]風の[illegible]　丈
[illegible]の[illegible]賣[illegible]く江湖集　支
[illegible]行[illegible]醫[illegible]　千
[illegible]新[illegible]家[illegible]所の牧[illegible]　居
[illegible]の[illegible]　住

道場のつも[illegible]場[illegible]　丈
煙の下[illegible]　支
[illegible]の[illegible]焼　支
日[illegible]新[illegible]遊[illegible]鶏の紅葉　千
[illegible]俯[illegible]　居
[illegible]の[illegible]の[illegible]　支
實徳の[illegible]　住

題雜

すらハ江戸の地や富士の雪　古立志

雁の帰れけ橋の音　春來

提灯の顔ハ河のふ蓮を見とく　試川

いつもあけすう揚さきの松　雪堂

月ゆゑか鹽屋と既に暮　渭北

輪と吹いくる時ハ秋風　倫國

ウ 猪の皆中の小草の花の咲く　湖十
清心人もなき給馬の年号　書永
雲とかすの雨もなきしるしん　雪堂
流るるめるる縁とかすや　武川
金剛の跳の唐を飾るる　春来
三十日の精進に減れ　渭小
朝しるの沙揉の豚をかれる　倫図
赤るのもいい他人のうる誉め　湖十

ナ 御祓のかうをとるる竈の上　武川
待結くおるるの月　雪堂
雪へ降る部るも利る家　書永
なるるけるのるる川向　素
鞦ケ丘こわるる八間縛の　渭小
竈焼を張れるも業螺ふる　倫図
同るるも汐他いるるる爲帰　湖十
惜しるも結るる人中の仏　書永

又六日ゝ[illegible]の雪より乳母ゝ[illegible]
俗醫ゝ刀和尚より叶ふ
春の[illegible]戸板のうへ[illegible]都鳥
わゝ[illegible]ゝ卯ゝ[illegible]ゝ粥の淡
酢ゝ[illegible]か青柳の[illegible]
宵戸の稲荷ゝ和尚ゝ信二十
月見ゝ[illegible]九十九里ゝ[illegible]
一ゝ[illegible]ゝの寄ゝ[illegible]灯

壽壹
試川
壽
渭小
書永
湖十
御水
壽壹

ウ
四ゝの[illegible]ゝ野原ゝ國西
代ゝゝゝ食ゝの場人
解き船ゝ[illegible]ゝまで食の
庭ゝゝゝ鶏ゝ風ゝゝゝ
[illegible]の山ゝ[illegible]ゝ宗の茅屋建て
四九ゝゝゝ[illegible]ゝ

試川
書永
渭小
御水
湖十
試玉

歌仙

風の果いかりも深海の音　言水
かるる体こあわ旅の油灯　春来
しらしらく寒住りの埃衣　臺蒲
ちちちの糸つきつるかり　文喬
鼓の月もわるくなりぬ朝の月　采仲
竹ちちちるの杭のうち投　紀貫

ウ 代寺の仲間化しるかう 存義
いとけなきこのつゝむき炭 萬
しの舟つゝ引ちまて人次木 末
傳るお伝尾長山島 仲
待ちまを鏡かうけて白飯 喬
わゝさうかつゝわしの順 義
きぐくまる寺井の清みうらゝ 貝
板猫つまを一日暮つ日 末

末の春まの春ゝ仲
今ハしゝの嬢の神 萬
ゝ小屋ハ揚ハ赤ホわゝ末飯 貝
嬢のくまつちの一の毒 雪
ナ 歸夏九日海者と物並 萬
仲長の髮つ立ちけゝ 雪
うす地つきぐちも三角ぬ地異ハ 義
祝末ハ一つ二男三男 末

大きなる[illegible]八ツ時
没する[illegible]井戸に鬼もあんなる事 仲
葉のくぼみ常山の花とうたはる者
風みなくもも所々の行灯 蘭
贏乃ちくもの貧れる矣 末
[illegible]の投打 眼鏡をもち見
紅鳥の投持する渡る朝つゝ義
打つゝる町の行灯 仲

印没する時の後をうら陽色 末
醫者の送る紙の行明 義
竹を鉦の一人不乱れあるを 蘭
我呂袋なるつまを珍る 仲
珍物のむすめ里紅鳥が好く 喬
[illegible]夕陽の命 義

歌仙

かすかなる朝霧や雲の遠方　幽山

冬をいくさの笠よろふる宿　春来

ちりつもる雪傾かし船のうき　虹波

隅をしたふる朝の閑　存義

みねの高き湖水三日月ヶ清されば　故一

花ともも雪ともも蕎麦幽りけり　萬立

投打戸ハ大工も[illegible]音の[illegible]　渭小
佛前の飯を[illegible]ふ輕う吹け　美作
一個ハ乳母も[illegible]迄[illegible]蟬の色　春義
何ゝ[illegible]蟬[illegible]　紅波
遠返ハ戸[illegible]別[illegible]　美作
[illegible]ハ[illegible]稲ハ奥[illegible]　故一
[illegible]ハ小敷[illegible]　春義
[illegible]川角[illegible]　紅波

日ハ[illegible]守知[illegible]ねむの馬鹿　第三
[illegible]屋の[illegible]塗[illegible]　渭小
[illegible]榛名向の[illegible]風　故一
敷の[illegible]唐の聲女の[illegible]　春義
[illegible]神[illegible]翁漬　渭小
[illegible]の時ふ書[illegible]看板　第三
誰屋の[illegible]持漬[illegible]　春義
板ふり[illegible]家人漬や　春義

乱れの卯花のさかりより迄　杜陵
つゝもない時割もる又難　渭北
漢和八ツ当る子のいとしさ　春来
済く居るのはめてゝ草履取　故一
おのゝ新田ふし流く島流し　菊亘
道中見くくも桃の太郎　杜陵
あく謡月と舟のもとくら　春来
征くし比かも傘の吸筒　存義

ウ
判婆の觀音あましき二百尺　杜陵
鬼の耳くわえる抱きし　菊亘
男ら代ゐ十のま備の十弥る　渭北
拋かの力うふのしらゝ卵　春来
てぬ眠し菊の彼流の肩ふ迄　存義
やしほ山の形りさわしきめ　故一

風虎岩の名今
寄月毒しらふ駅すしく

のさしれやすれりく国の月　一鋏
初うしうしの情を喚く　春来
八重の沙彩酒のしらしまく　為雷
嘶しうしれ星いさしうしの風　渭北
釣兎秤かしうしてつうしを　刃峨
しうしうしうしうしの馬場のの末　米仲

ウ 小倉川渡りてやがての十文字 春来
もみもみ通れる去るの袖 双峨
初しぐれ降かへまる播州屋 渭小
年まもなく草やうやうその花 為雷
ここかしこ寄る濃金蔦 羊仲
生きて冥加を撰集のもと 長来
すゑの世の名代ともるわるる仏 為雷
ほのぼのと摂津の馬の小便 羊仲

茶屋に小かぬ花の中ゆき 双峨
去りもぶく川岸をつむ 渭小
月やわれ去やの世のりと耶 長来
みやくとうかれて狂へ 双峨
ナ 傘と逆ふる徒れるる 羊仲
砂地の草の嶺ゑる 為雷
明星のすよ夜の捨角 渭小
双盤こ挺 搖へしらむ 長来

遥かに見わたせば紅葉の錦を敷き
湯殿の橋を渡りて
つゝ科の木の茂りあひたる中を抜
て行くに月の四阿
雲出峠を越て後の声を聞
入谷の茶屋に休くも所
山路を松の枝利事
所々の額を見て行くに

為雷
羊羹
双峨
渭小

ウ
茶屋を過て暫くの間の
まゝ〳〵雲に行く舟
風呂浦に松の幽を見し也
つゝ新の茶屋
鳴り山の蝶の舞ふ
まい降るかのよそおひ

為雷
羊羹
双峨
渭小

歌仙

花のあと鐘は上野か浅草か　芭蕉

遅々として眠り附きそめし　歌　春来

宛ふまれて　南花

若き人妻　鏡の袖口

竹の月村は根ざしを友として　木

笠のうと泊とさそひゆく　円

廉塩（ウ）にうえのことハ老ハ同へ　花
守りの口の引きかけるる　同
面白き科ハ行きぬ人ハ見ふれて　末
なりしなりの角みやなど　同
当年ハ黒ハ色のうちも長門　花
坂とうるハ行きけまる白　同
べイらハ葉をむハ行ふん　末
鶯の付しの志のあとり　花

物類親のうあ髪とり　末
小僧の墨よりくる注　花
見くとうと本ふ園の月日　末
ぬ本ものうくん色の行　花
人人切のうくれ黄雑頭　同
信長時代府積りうう　末
ちくくも風の行燈ハきれく　花
中ハとむくん俗糸のう　末

うさうるはみやしろみて新の宮　花
利力紙しうくうしうしげら　同
常住の文つくるる　大力　同
卜書　獨油穂しかる　秋　来
くいの街わわるくい鳥丸　同
面月乃星色ふさうる新なし　花
浪ふる思ふ院の面うの面へ　同
くくる刑毛よ情の刑毛　来

年の武ふる物ふる去ふる　同
程係入と跨く希人　花
持ふ行ふ菓の太輔ふ菅臺　来
くめつ下き宿ふ防風　花
行こ蜂ふ針ふ金ふ　来
長の底ふと　閏三月　同

詞僊

作者

春来　東爲

祇丞　故一

如輙

下冷い金沢に早き出雲師出
御免勧化の高いこと為
吸子の指いこと指打りろい ま
しもしもか雲の三も出しと成一
芸馬場川面てわゆ出て 撥
仲間をめける桃源の振舞 出
入極の屋をうふこと七石蔵 清泉
こえハすねぬ 膳 ま

わ屋の丈のこの長也 為
松風やんこと一ち屋達の 撥
蛾の次い生ものわこの後 一
巣を出て見る蜂の吉日 泉
ふふふの言こと蔵やの 座連
ちちきやんこる鉦のこい中 る
子の辮を嘱ふわ屋 出
大宮人きこいこと ま

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ウ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌仙

あの蕪花ふあ[illegible]　任子

日と解[illegible]田螺のこゝ[illegible]　春来

抜る髪の[illegible]　凡鳥

ら[illegible]　存義

寒月の尾形の火　龍眠

今[illegible]門番　鳥

ウ 背筆のあるつくり様也　来
烏帽子もなき者の稿持の人　眠
袋のくるみやうの法師数　義
懈一道器のごとを掃く　来
行風の中ふる寺まる城の鐘　鳥
いつゝ世界の地くゝ感宵　義
墨を塗くるゝ侍るゝ月さ　来
世を捨人の姿とゝ申社　鳥

絶ゝ見ぬ人ハ何地くゝ子　眠
大路のゝ国も鳥囊　江山　義
抗張
るゝ月の幸くゝ鍾ゝ推の月　鳥
仏ゝ名ゝ仏ゝ和尊　眠
小僧丸弾懈ゝ由ゝる露の宿　義
天秤棒をくゝゝ　猟　来
今嘆ゝ見ゝる人　養　眠
雖もゝ筆之の中　鳥

西塔にまいりぬおの武蔵坊　末
世をすて善つしつの道　義
常氏が後室むきのかりて憂　眠
如くしつ〳〵れ目をくへ肩をれ　末
あすのの木の葉を掃ふ橋御帯　鳥
鳥の名ふ白ふ朝ゆふの　眠
祇ヶ園のかしふ歩の路の月をれる　義
角力をし果れうをき場賓　末

（ウ）
桂離宮の内のをの秋の風　眠
簾をあまれをし場をる面をれ　鳥
山陰の公をしをれをの　義
灯も四のをふ天照をも　眠
花既見侍のかをつを　末
大工住ふをゆれを三月　義

歌仙

[illegible]

[illegible]

杉膳の吸物

[illegible]

[illegible]使者の場面

[illegible]

[illegible]の程

[illegible]の[illegible]

三千風

春來

遷蕉

蝸名

仙水

旨原

ウ 信濃の羊も高さ七尺ばかり　九波
非人のもちたるみちのき　當
つゝハ病財もとる　又截藥　ま
年代記ていふ夏も雪ふれ　多
信濃場の松の元ハ霧風　尓
炭焼の日をとるとうら　收
七種のつゝみふくろを雖さゝわ　名
海老ハ形式のもとをなる髮　ま

信濃路ハ高の別くるき　當
ハふ下りゝ高ハ日をのむ樣　名
ハ風のつゝみふくるすり燈　收
流ふつくる弟乃ゝ方　文容
ナ 陸奥薩摩一時ゆまる千朔箱　多
武王の朝ハ四ゝ紀宴　尓
揚ふ人多の味つゝ袋　ま
おも宮ハ多ゝ下　收

地行りの客の[illegible]紅い花を
[illegible]所の[illegible]咽への口の
[illegible]鮮やかな[illegible]孫[illegible]を
遠ふまして[illegible]る雨後の蝙蝠
月のかる渡の[illegible]ほかを
国のうるうへ[illegible]国[illegible]
どん雲もう[illegible]世[illegible]小太[illegible]
お[illegible]五人[illegible]ほか[illegible]離す

ウ

法の[illegible]ふる渡舟を
[illegible]酒[illegible]ふ岐阜の世[illegible]
今[illegible]の[illegible]る太鼓が押[illegible]
前[illegible]灯[illegible]
墨[illegible]ほけの[illegible]下るの花
吹[illegible]れ[illegible]鳥[illegible]

歌仙

鉦鐘の肩のからくれ花曇　專吟
霞より登る坂口　春来
宿入の振くるまて永き日に　萬花
ちらすと鉢を煮る月　蝸名
鉢恩の猫の目ひろひて菴　支
秋の日のめくる所中の夕　花

ウ 其日の天氣にて所々斧打 石
きこえしまま雲陽花の元 末
ゑ見ふ神の門わたりよ 花
宇ゝ尊いまゝ見まうら 石
てゝふ神ゝ乃滝を祭 末
打しのゝ谷の直ちまる 花
今年土産乃側をまて吹 石
年まるのゝいをこをこゝ 末

雜役乃年もかりて七ゝ森 花
居風呂の大ゝくゝ稲妻 石
法乃日紅葉 喜蔵生まるゝ 末
嵐の秋乃ゝ花ゝ 花
十 是乃ゝ月乃ゝ猫ゝ 花
おゝくゝ布海苔をつふ清滝 石
揚らの乃ゝわる七面 末
師匠乃長を湯て洗ふ 花

[illegible] 名
親[illegible]しうる四三葉 末
松絵の岩絵青もみのも 花
久志し馬鳴し無[illegible]貫 名
塩[illegible]の[illegible]しき食 末
三日月[illegible]と前と開読 花
煙[illegible]薄き酒のわ[illegible]と 名
藤も五間のうちう寺か 末

ウ
[illegible]の[illegible]墨の月りう春ふる 花
[illegible]れぬ猫の食傷 名
塩[illegible]の雨天の使者乃付位 末
浴衣よ人乃怖れわ釘 花
轉んう起う花の長通者 名
寶[illegible]しの下る草咲く 末

歌仙

江と汲もゝ倉月の涌く秋も　素堂
敵くに傳ふ蓮葉の皮　春来
かゝ車蟬なかせく暮めゝも　蓮谷
ものあるもめける中露猛の勝　百太
髮金のうつを見れいんのぐ　買明
松乃小ぐやうち投の江　書永

ウ 紙屋の色々迫る色のうち
極ハゆうゝゝる山川の淡 紙色
五文字をつゝれる弄ふいろり 玉帙
川秋清みけてものゝ甲子 故一
面癖の葉ハゝゝふ其ゝるのう 第仲
薄又ふうゝれ夏葉の家 春来
ゝふ入れ瓦中ゝゝ廣度院 蓮谷
ゝぐる輕子の息ハ打ゝ 百太
買四

ゝ酒の容のうゝ紙ふうのゝ書永
麦ふうつ活ふ雑の深きゝ 紙色
四ゝふくて月日ゝふる儀別貝 玉帙
都の風の教一文ゝ 故一
一ゝいわ声のおやゝも太祝詞 第仲
錫の茶碗よりの端ゝか 書永
居所ふて玉ゝる宮宮賓 故一
慾ゝゝゝゝ中ふ去原 玉帙

榛の木の[illegible]より[illegible]る法[illegible]法華
仕[illegible]ける署[illegible]の月 百太
[illegible]風よ[illegible]さいかぬ牛の角 冥的
柏猫[illegible]八角ふ割[illegible] 紙巫
何[illegible]の博士の高帽子[illegible]ふ[illegible] 羊阡
女[illegible]書て[illegible] 長素
[illegible]ふ巨燈のお[illegible] 百太
抑て[illegible]宝れ羅刀 蓮荼

ウ
[illegible]の糸[illegible]帽[illegible]世[illegible] 長素
お人の客は膳胃ハ合点 故一
[illegible]掉[illegible]ふ[illegible]く境川 玉城
お鄭[illegible]て下[illegible] 商冥的
天地の情廣[illegible]の義 紙巫
人を[illegible]人間の[illegible] 羊阡

歌仙

蝶子
貞宣

はるの禅尼の知るかけぬの秋
愛宕やしく後の一筆　春来

夕来れば雁井堰の月ぞ冴　関島

ゆけぬる馬士の伺つゝ合　龍眠

うきゝゝす樽の匂ひもぬるき　五丈

わまゝく鍬をきるゝ　青柳

京屋の、めし　三葉も拾ひく　千砂
五六月　雨の大竹　存義
わく樂や園角て俣を拾く時　素
不昇もめけく　眠る猫　関鳥
うき人の世ひのもく　寸　青柳
行燈くもくらく　五丈
むろふ関の後架の風寒　泥眠
旭　千砂

くくく宿屋う富も秋の葉よ　存義
うくうの花や　合　膝　青柳
寒風の吹き猪の鞍のかく　丈
御月のかいくめ初年　素
いくく度ひ踏れくよの頭めく　関鳥
火くくる驕者のこ　いけ宿　泥眠
鉄きくもくふわくくる衣更　千砂
初くくの磬ふまくく深めくく　存義

小便と海へ[illegible]ぐらん神の時　素堂
鴨しらめ鴨のうきめもなき　安史
もも[illegible]も雪とふる代　都鳥　沈眠
頭巾ももうの思ひまじ　園鳥
器凝を箱の人て[illegible]の奥風乱　存義
雪[illegible]保の色をみ[illegible]の数　千仞
物卿も[illegible]腰を動し　青柳
[illegible]も秋[illegible]下外　存義

[illegible]の[illegible]の[illegible]音時雨　千仞
子曰　[illegible]　[illegible]
雉を極の[illegible]時もあり　青柳
[illegible]鈎瓶の[illegible]音　園鳥
山陰[illegible]百の[illegible]　安史
[illegible]鼻の下[illegible]日　沈眠

歌仙

花實の扇ふりけゆく峯の雲　兼豊
かゝるくよ櫻のさらら　春来
夏さとの月のあるじて　鯉藤
砧かたうる中指さうし　栖鶴
宵行くて十三夜　渭北
磬口もけしの堺し　万年

ウ むくりの千切の中に赤しゝ白 扨
金那王殿の屏風の屏 小
いき髮ふりしわけを壇結ひ 末
嶮しき地獄く十月の陽藤
おやの和阿雑加葉を低く見て 扨
母のもりの傘かあり〳〵 庵 末
いと屠や綿も嶮かきしなを 小
幼竹 住ふ美をを添町 扨

雨降る撥のもりきも浪宮の上 扨
世〳〵しく菓子のさ海〳〵 小
やうる船の鳥の日と月暮く 年
陽とうきて犬蓼ハ寸 扨
ナ 鐘のはき寺わい塀もすき地と 末
所のもりく衣皆しのまさら 扨
わいつりしらい言葉のゝ表 小
土遠藤武者も青ニ木すく 扨

白うるはしく拍賞ふ新ふ時雨まち　小

一點こゝ陳皮甘草　友

朝ゆふまとしく〳〵みゆる　扶

ちらほら開れの枝　末

御祓の朝ゆふ人のそろふ　友

出いめりしや親子泡盛　扶

新ふ如きもの〳〵の香具店　末

音頭のせきぶ〳〵もく〳〵　小

ウ

朝鮮ゝいふ鮮魚の年きれく　扶

つるもむしもも暮過引ふ也　友

場所ゝいふ家を迎ふるとき　小

人〳〵いけじゝ陳乃舟　末

花の陽鯉の階ふとうけ　扶

五日の風のいうのかうの卯　執筆

哥仙

煙〳〵て寺の門ゆ見え仏ゆ　不卜

ゆ鳥眠れ一山の皆　春来

多〳〵の萩と岩根小さのうつゝ　専澄

酬花の節を風運ふ　友以

まぶ豆のもゝハ皇あゝとの月　蘭舟

うゝ赤きゝゝ　面　南花

露の命ハ京の河点のうちに深草件
をとの鄰をとに藥箱のうち況
ハ小判をや懲垢のまゝにたく末
ゆをまくるなを卿の埃奇
ち射まい蹠もすると蹠の下以
結ひをうつる蟬の割竜件
神のやうかたねに屬緣花
をふ望月の泪雨うの卯末

仮僑のうちハ信ハ柳況
花の姿風炬の火ハりに物以
疾痛ハ何ちをもとをすとを斗奇
互にうむ墨視の良況
嘘のるの鏡鳴の地詳心末
仰倒まの呑ちにたく花
又ちまぐをもとを點の先件
ちをまちハをく集る菓の葉奇

鞭朝の字繪きゝ掃部宿以
是見るくきい之髮乃艷ま
大しゝ寒の溫ふ之の奇紀
出佐の便宜ハ帆みゝ多紀件
きふ又つゝ替るもの峯洸
峠ども鉦しき坊以
位別袁ハ月和の出珍件
蜀黍のふくきゝ乃同府

ウ
の乃松笹もわゝ心滝の雪ま
行之地りの詩人ゝゝ洸
もの窪もゝふ魚乃袁以
法ハ見る鋤乃焼戸府
この八傘をれゝ毒花
ふくいわを彩れきゝ鳥件

歌仙

さゝり葉ふる嵐の音さらぬ　沾徳

うゝすゝしくも雨の名残　春来

あるるゆふ月に袖をしぼりし　長梢

つゆよ帯なる乃再従者わら　故一

月の友ゆるゝ袖と坂ふる　祇丞

陶と音も中段　水路

車戸見えたるのれんいかにもまた
ずゝ焦てこれ沼と目出度所に捐
年月をへて枝の側に妹居て一
鶯のなくを聞つゝ三嶋へ参る丞
入りくれて夕日の隅ふりて道捐
見るもでつけしらくいらつゝまた
暮雲陽すなりて奇麗一袋丞
十二日ゝ雨いとう年一

初瀬に宿の八時の月なりまた
負てこれ蛾なくれ捐
もるを見て捐もとねの上一
酱の響ゝ音くゝと鳴丞
ゝ月の末ゝ林ぬ主硯捐
雨戸ふ花けゝりる所見一
小千年下の蔵る林の森ま
永ふ鳴夕ゝ善清場の丞

山使者よりつかはる法男　一
きつふきわりつさの煙り高し　猶
疫病小細布の蝋の長けり　丞
はしりと二ゐ姫女房の袴　末
姫元の名きつうき月の壁　猶
打鼻山よ泣いロ打　丞
弾くうふ夏かり絵ふ猶　末
二ゐ到ぶきうたき代の食　一

物と吹ふ額て見る帆ケ船　路
戸棚くはたふ鶴り　猶
西面いみくしわらく雪の宿　一
物の軒温泉場のむり　末
味噌酒ふ留の人も雪　丞
り雷ふ舟もくく　猶

歌仙

嵐雪

春来

斗南

渭北

茅仲

故一

貫板い寸る勝ち音を吟　和尊
い弟貸沈丹波の織　米舟
色のくるぬ地と産といふ社　丈
青ようくれ擬つの色　南
株道具もう男富の四方　小
くまぬつ牧を握る也　仲
花者葉打つまの孔を　一
吸拍ゆもる品持の多　尊

くくと眼病のたくく管屋　舟
地義と交ーれ上京の角　一
緋毘の月沈い蕣氣を信く斗　仲
桐とも扇のふくくと　丈
卯の種四乗つわくびつる色　尊
折らくくこう舞も芸のくも雲　小
非嵐のぬちのくるぬの高　南
多武峯くくも拭て峰ふ　沾耕

[illegible]
[illegible]石竹　仲
[illegible]の膝[illegible]　一
[illegible]山の[illegible]　舟
[illegible]の[illegible]の瘴毒のうち煙　南
三人扶持の[illegible]　寄
[illegible]湾より月丸朝鳥　小
[illegible]秋風　南

[illegible]巻の[illegible]　耕
[illegible]前の飯　来
[illegible]船の[illegible]漕　舟
[illegible]居り建[illegible]日[illegible]　小
図西も長門[illegible]の[illegible]　寄
[illegible]　仲

歌仙

ゆくすゑや何かとゝ南る海苔の味　其角

はつしぐれの雑もとゝ山　春来

日つ脚も冬の二月を待尾かゝ　民峨

おし菜もん盛月のかゝ　和尊

まうゝ(年)の初穂れしやふ　米雨

星さのゝゝ蝶ゝゝ　巨淵

善光寺川中嶋へ字つゝ　茶仲
いゝ〳〵咎ふ飯の朝ゆふ　茶舟
蕨葉の色しけゝゝまゝ
吉喜くゝゝと国の横物　雨
高麗人ふ舌ゝ結麻子　竹
何ゝゝ年国ゝうけら　峨
こ三里の間ゝ紀の通　舟
去れ終や石ゝ苅芋　仲

出雲の十四紙さする石鏡ゝ　測
拍ゝくゝまぐる長袋の足ゝ　竹
汐ゝいのゝゝ雀や百日　雨
ゝゝ角る牡の兵角の つゝ橋　末
紙面姫笑ふ病ひの髮うら　峨
裏ふ花ゝゝ人ゝゝ　測
鰻頭のゝゝゝ肌ゝゝ　仲
風呂ゝゝふる釜の屋の雪　舟

寺々の鐘の声　弓
解脱の衣手に鐘の音　峨
ちりぬるの生涯　家康　未
箱根の関の封　目　両
松の寄る須磨の浦　舟
月も代々ぬれ古河の鏑　仲
桜咲く花の盛り　剛
俵藤太の栗の木　弓

壺の金撥の下おろし　仲
面の持つ手の端　未
鼓ゝ　峨
千々つるぎ小太持の長　両
何成ぬ樓船の上　剛
日もけ夜の五尺三尺　執筆

歌僊

名のはなのぬふてふ山さくら　湖春

きのふの雨のりしるやうみ　春來

蒸い田の稲の葉よりうく　青都

鍋の戰いもうんうんしい　故一

月の夏ちて酢豆のあのしい　采仲

だいをうつて差竹のうみ　都

[illegible]屋の[illegible]の　　末
[illegible]文[illegible]紙落[illegible]　　件
[illegible]月　　一
[illegible]二百[illegible]　　末
[illegible]　　都
[illegible]　　一
[illegible]　　件
[illegible]前の[illegible]格　　邪

景政の宮ふたつ　戌月夜　　末
[illegible]鎧櫃の小板子　　件
[illegible]蝶[illegible]　　一
[illegible]て蝋の[illegible]　　末
正[illegible]散[illegible]れをゆり起し　　都
[illegible]の[illegible]屋[illegible]杜稗　　一
[illegible]深[illegible]貫[illegible]白き　　件
[illegible]をかゝる石戸　　都

なてこいかの科の錆ふかきこと　ま
九郎の柱　一ツ　仲
如くのすの奥へりしまる九鏡　一
きもの氏うの荒神乃旅　ま
桃灯ふ迹と半月の間　都
白うや結ゆくもの花中　一
のう時けけ飯とよまれら　仲
鉄下鉄ふ似ると下法のごまく、

ウ
唐風呂の脊を馬ふのそのれて　ま
見ものの鏡乃くもこと　都
家ふ入ぬ箱ふ鉄拍いれて盗　仲
道中傍を新と名やく　ま
芝をふく猫まめふ花の傍　一
なるる海苔の鎌きこと　都

寄仙

みしきつのふ山を見やりて柿屋　青雲

くれなゐの麻の内さぐるふ旅　春来

雑の日陽の時空合も麻すよ　催耕

揚羽をつるふ海保もあり　栖鶴

法ゝゝ乞ふ十騎流めり　吉義

みちゝゝれく蝶の内道　祇空

ウ

一日に啼く様もなき風　芦竹
涅槃くらめる曼荼羅のあ　催耕
人声のとだえて海吼えて　素雪
登りゆくの風目流して月　吉義
家ごとの顔ならべたる三世相　柳鴻
あはれなるかなれ九つの鐘　芦竹
くら闇にさぐる印の犬丸細りて　祇虫
雲の峯くりて南ありと月を　無塵

二花はわすられ生井の名残山　素丈
御花の裏なし花のよ曹く　祇虫
月露も逢へ道はくもされて　無塵
つけらしくの鶴を抱く　催耕

ナ

姿酒はところね先生の杖柱　吉義
卿らしむ飛車の音の高さよ　柳鴻
川の口きゝてやあまやとあきらめん　祇虫
仲くらせぬ御嶽精進　無塵

如〻實我家の[illegible]
繕つくろ[illegible]と犬師より御
洗ふとく金を糸の出用す
者を[illegible]
風の[illegible]山の川原の
物ふりて[illegible]猿の[illegible]
盤[illegible]ふ朝も[illegible]の日
田舎の者[illegible]

催耕
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ウ

所の秋をかりの侘る袴ノ守
さめうと出きふ漏る鉄きう
千万の小粒をまかく掃よる
四国い代の名[illegible]
殿[illegible]
[illegible]和布のあを徒り上て

催耕
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄仙

屋のうち船に師の櫂敷かるる　古杉風
船の舟ゑの鞍の赤風　春来
いやしいつ大の曾を惜らむ　薑青
やとけるかの河岸の月　滑小
一面のうふ書の海の音　羽卒
振るふ草の花の蓋　常仙

ひと今新造い寺の落ちる
孔雀の樹蔭朝日みちる
とくの切るる面の細流
ちあるる所の木の半部
蝶の舞ちるを鶯
鶯の下ぬく月の
孔雀社南北の小六月
外ちの谷会くる風

元山の果ハ尾の黒きまで　蕎
本数舟よりあふれ出て　麦
しら雨ハ葉の色枯れて　辛
弱そうなる犬の爪　小
一本の生きて御くらの京　仙
葉研のうちと嘗る如帝　昔
客ハ葉の茶ハ月冷し　麦
見のまで行くうまん　辛

ウ
もぐらの穴に隠れかくる　小
伯母の弱るも中屋敷　住　仙
摩元へや稲を屋の穂　昔
毒しと見まても如意の図両　麦
移る家ふ馬上のうしろ向　辛
きくを川の色青く流れ　小

歌仙

夏ちかう雪の深と富士の山　東順
海もとゝきに乃松しなく魚　春来
燭臺乃郎ゝ所よりあつまる　大雪
ゝゝね土圭もやはり月と入れも　埃菴
朝風に鶉ちゝ月乃ゝ　東壁
茅蓬のゝゝ枯乃果　虚白

晋子丈

柿山ふ[illegible]大[illegible]と落[illegible]　旨原
[illegible]のんやと[illegible]　大雲
[illegible]　春来
紅粉青蛾[illegible]　東碩
蓑未[illegible]蓬屋の下に根[illegible]　埃居
[illegible]の[illegible]ぬ町人　旨原
月の宿掃けや茶筅の削り屑　露白
[illegible]よ[illegible]焼栗　大雲

[illegible]　東碩
鐘の供[illegible]　露白
[illegible]の上　埃居
今[illegible]の秋　春来
[illegible]の[illegible]　東碩
[illegible]　旨原
白[illegible]　露白
[illegible]　埃居

踏人の住居も浮貴　橘うしハ　去来
鈴落しくちらくれ鶯　廬白
宜鉋し住ふ人の新しくり　旨原
ねもふきな腰さきの尻　東壑
去秋中ハ紙帳に風のくさりり　盧白
鴨の帰りけし　月乃玉川　去来
深泉とやけにせられ地獄の物語　桂居
悍しき狩の獣もわざしきや　大雪

廉盃に雲乃貢を持しまれ　廬白
一声きりけし狸の拝音　東壑
草摺とふりく〳〵織る時も立　大雪
筆ふめでぬ玄関月如花し　桂居
落雨に花もさ寒きこぼれ山　旨原
刈や杉草乃十鎌八ツ鎌　萬之

かぢ

猪もとるまで秋の到来　遊女高尾

どの神か城寄せしむる月　春来

焚るうこれの墓ひやうふ　百宇

もやまとまてね鼓ゝのうち　栢莚

意味はまる草まるゝ人鍬花　禾仲

灯の姫さいとまもゝ搜村　訥子

ウ

醫人も留守に膳すゑさせて　ま

別まうけのすゝ納豆の声　守

山寺は中から下へむかふ雨　子

弓矢取りくハ古き百姓　仲

皆以池断食堂にしくさて　遊

すへより蛇の文をへきてうし　ま

兔もすゝ迄ハ小啼呪淡る穢の月　買明

躍つのれる孝しけるとの　子

人ゆる雨に濡まして下座敷　守

風市痛むとも罷出しけり　遊

りんとと資くとも文あつまれ　子

堰俵をしめに芽をとらへ　仲

ナ

川むかひ都の零巾をしらすめ　遊

律しくをうけて馬浣に渇食　守

米の飯八十の親もいまかく　来

今度の奇進日吉にあつ　子

湖の色うくきんでふ小松明　伴
流れを引て白うきく　遊
ケ針の居ふかうる雪の岩　小
江戸を指さすかの三ツ山　き
矢ふかをかの山ふく西の雲　子
ゑ引ふかぎきうる借ふを　宇
樹ケ崎ケ戸やし空の月　伴
朝良志やんく風流花れ　遊
　　き

樹雪ふ鈎の押乃霧をふく　宇
煙ふ立ふ番近き家ゝ　子
時ふ雨雜魚ハ伊毎の蛙ふる　伴
雷の地雲震ふきふ星　遊
飛見ふ時ふ稲妻のやふふ　
春ふ山ふ南の明く去　執筆

歌仙

何人かぬぬぶ土よりとりもちて　忠知

川端くゝ蛍ふりし馬　春来

幕の穴玄関のかゝるもの、

可愛ひ伏せこのもんゝ　青郊

西の丸ハ昔ハ月ハ、

行方ゆくゝ之線　玄

ウ 磯のかるうくお衣の袖さへ　郊
海山さへ貧乏の宿　ま
移香のくゆらしは是さる　郊
女の力貸しられるうくて　ま
俗さへ方宮と分例の燈掛　郊
さしぬ小金東金　ま
口紅の長らるうか石佛、
さへれの灯のもまき　曉　郊

二ねの東くく嘯くい家鳥時鳥、
俗さるさのくる月の落る　ま
花火くく敷ると雪ちや、　郊
一荷の車ふまちうくのうく　ま
くくさくく遣の風を恨色　郊
かくくれのあまる茂多
月夜の鍬ふ鬼い指まくく　ま
河青清のかけ花ふ安　郊

五十年ゝ[illegible]ま
天竺船ゝ寺のゝ[illegible]郊
唐伝ふ鑒のゝ[illegible]ま
ゝゝゝゝ[illegible]裸虫郊
迦ゝ[illegible]（内切）ゝ[illegible]ま
月ゝゝ華ゝゝ寒ゝ周の末、
書ゝ[illegible]郊

ウ
尿ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ま
世ゝ海ゝゝゝ[illegible]の日ハま
山門ハ許ゝゝ[illegible]ゝゝ表しき、
車ハ積んゝ[illegible]郊
乱れ入る時ゝ[illegible]ゝ花の留を、
ゝふゝゝ[illegible]ゝ日ゝ皆ま

歌仙

冠里子

[illegible]

春乗

海原の何里[illegible]の[illegible]千里子

つ[illegible]け[illegible]社[illegible]も　棟　巨洲

[illegible]の[illegible]　瑄輝

[illegible]も　梅の　暦　亘通

ウ
玉菊樽蟹の穴雨く様ほ風の声　旦調
十能の火ぬ桃らちて行　波耀
財徳の附しくれ尽くぬ也　亘通
押絵と見ゆくすゞ古跡塚　千里
冬荒起しつる手や　巨洲
牧士の胡床賀を祝ひむ　旦納
ゑらむ印ふ味噌付けしの月　波耀
むつかしく海苔の氣立　千里

惜まゝし志家へ近ぬ菴　去来
居風呂桶と摸さし揚　亘通
えんにて紙風情の蜻蛉狗の尻　旦納
桜ふぬのきて居るの傘　巨洲
ナ
伽れ屋舟入橋を表太まる　千里
まされる時のいんやくの饅　去来
押しらく判ふらら桃の衣　巨洲
硯子の果も召まの雛　瑙琪

月ゝ年ゝ約めぬ小とゝやう唄　素末
世ゝ乙ゝ乙ゝしゝさめぬゝゝ　巨沙
ゝゝすゝこふ病人の乙細色　冥通
黒ゝのゝ小ゝ箱乃七りゝ　千里
朝顔如六條をぬ織ゝや　旦酒
月の雁乃ゝ屋ゝをゝ音　冥通
ゝゝ乙ゝ乙ゝ乙ゝ乙ゝ乙ゝ　珍輝
ゝゝ舟のゝゝ波　旦酒

ウ

歯の音ゝ乃ゝ乙ゝ絵色迎　千里
錦別の詩小饂乃べて　素末
人ゝゝゝ中乃ゝゝゝ小撥附　旦酒
ゝ間乃和平の扇の義状ゝ　冥通
ゝ舟のゝ三所ゝ花小ゝ　巨沙
ゝゝ吟下ゝ　珍輝

歌仙

鳥小蔵く蛙よわる椿の邨　桃隣

春山暮色　春來

彿入の傳ハ[illegible]　一羅

犢ゝゝ道をけ[illegible]める　岐洲

朝日小月ハ[illegible]　渭北

秋もしけゝ[illegible]　石腸

うつもれ葉のうつの太子堂　洲
代変の名ぬ日よりつもい　註
ゑんちりぬるやとしを揮れ　末
食こてすから入梅の和尊　小
うくトの雛別荘の紫つの花　腸
今よ田舎の俗い辰を助　末
のもあうくく鶯の新田　小
中の口くく花ぬ大枝　沙

はしの内より辰の指を打　註
うつもの日の見てぬく長　末
奉納ふ表の車をとすも　腸
うの月の上の赤徳をも　小
若葉ふ辰の暗くなる　註
錦雑島ようの帝もうの　沙
打風い沙漠の変を空の　末
渦舟のきつほのくく　腸

内引さしつゝ茶籠はなされ尽 小
鶉の節の稲ゝ目へさして秋 湖
蓑草蚊屋の釣もいはずかた 腸
まふかき涼くもお料の情 荘
立すゝみお湯便のかくりも出 湖
拾銭くるとめるとつき鞍を 小
関守は月に頼まるゝ夜もなし 荘
忍ぶ事達なめて庵の七徃 来

ウ
空蝉そ風に吹まはされくす 小
つままて時々拜わくらめ 腸
異に赤山着のはまか衣 来
ましらもしく倉備 荘
あるはいへ花のあかりの下屋 腸
若葉の下備はなはんへく 湖

行仙

蟬一つ海へ上りふる枯野哉　東潮

行人寒き鍋のうんとなく　春來

ゆるされぬ公の世代を盜みて　百峨

あき鏢のうしろ　指　米仲

されば社見れば二日月　政一

うしろ　鏢の襟　峨

吹すとも洲崎の磯根の荒き地　来
味わしく飲呑つまるる　一
忘れぬ山枝を雨を如せ　仲
警者を守る庚申　来
傘をとは又晴れ梅雨と　哦
建角井戸の町　仲
関西荷を行る　盲馬　一
月ある色の黄も薫て　哦

忘れも縁の酢和えの　来
呼ぶ人の持の温　一
船場と鍵いめ　さ後　仲
ちかい城氏　呑口の祈り　来
こ飯いきのまふ　哦
竹鶴く参れ行四の神　仲
ちるる字続ぬ　一
四　哦

朝鮮人賣買の金ハ海を渡る　壱
数〻さんの〻〻〻供　一
きの〻〻〻横〻〻〻